

海外出張報告

マサチューセッツ大学アマースト校, コーネル大学を訪問して

附属図書館情報システム課 紙 谷 五 月
同 堀 越 邦 恵

1. はじめに

平成19年12月10日から12日にかけて、理学研究院の行木孝夫先生*¹とともに、マサチューセッツ大学アマースト校とコーネル大学を訪問しました。これは、平成19年度総長室重点配分経費・大学間協定校交流事業の助成を受けて実施したもので、協定校である2校のリポジトリ担当者と交流を図り、それを本学の機関リポジトリである「北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP)」*²の運営に活かすことを目的としています。

2. マサチューセッツ大学アマースト校 (University of Massachusetts Amherst)

マサチューセッツ大学 (UMass) は、アメリカ合衆国マサチューセッツ州内に5つのキャンパスを持つ州立大学で、アマースト校だけでも約2万5千人の学生と約千人の教員を抱えています。

今回は、同校の中央図書館に当たるW.E.B. Du Bois Libraryを訪問しました。この図書館は、キャンパスのほぼ中央に位置し、地上25階地下1階建てのビルに5千9百万件の資料を所蔵しています。



W.E.B. Du Bois Library

最初に、館内を見学させていただきました。同館は、一般的な閲覧室や特殊コレクション室の他に、コンピュータ室や教室、ラーニング・コモンズ、カフェなどを備えています。ラーニング・コモンズとは、約160台のコンピュータと400口の情報コンセント、プリンタやスキャナといった周辺機器を備えたフロアです。キャリアセンタや、レポート作成の手助けをするライティングセンターなど、図書館以外の部署が運営するブースも併設されています。これらのブースは、学生が一度に用事を済ませられるように、元々は別の場所にあったものを移設したもので、学生サービスを重視している様子が窺えました。



友の会作成の館報（後方右）と広報グッズの数々

“Friend of the Library” (友の会) 制度も印象的でした。これは、寄付や資料の寄贈を募り、集めた寄付を様々な図書館運営の場面に役立てる仕組みです。友の会の職員は、図書館の職員と同じ階に個室を持っています。寄付の募集、館報の発行を含め、図書館の広報は友の会の職員が担当しています。寄付や職員制度に対する日本との文化の違いを実感させます。



(前・中列) UMassのリポジトリ担当者
(後列) 行木先生, 筆者

次に、同校の機関リポジトリである“ScholarWorks@UMassAmherst”^{*3}と、ナノテクノロジー分野のリポジトリである“InterNano”^{*4}の担当者の方々にお会いして、HUSCAPとその関連プロジェクトである“AIRway”^{*5}を紹介し、お互いの現状や運営戦略についての意見交換を行いました。

“ScholarWorks@UMassAmherst”は教員の個別ページ作成に力を入れていて、業績リストからリポジトリ内の文献へリンクしたり、利用統計

を見せてコンテンツの登録を促したりしているそうです。また、同校では、リポジトリのコンテンツ収集は選書と同等であると考え、選書担当のliaison librarian（特定部局の図書館に長期間所属する司書）がコンテンツの収集も担当するよう、協議を進めています。特徴的なのは、昼食を摂りながら討議するランチ・ミーティングです。こういった場でliaison librarianにリポジトリの意義や著作権について理解してもらい、リポジトリを全学的に盛り上げていこうとしているとのこと。

3. コーネル大学 (Cornell University)

コーネル大学は、ニューヨーク州を中心に3つのキャンパスを持つ私立大学で、今回訪問したイサカキャンパスでは約2万人の学生と約千人の教員を擁しています。

今回は、多数ある図書館のうち、同大学の蔵書の約半数を所蔵するOlin Libraryを会場に、同大学の機関リポジトリである“eCommons@Cornell”^{*6}と、数学・統計学分野のリポジトリである“Project euclid”^{*7}の担当者の方々にお会いしました。コーネル大学は、分野別のリポジトリが盛んで、これらの他にも多くの電子的なコレクションを持っています。



Olin Library

ミーティングでは、“Project euclid”に関連し、数学・統計学分野について重点的に取り上げ、日本の紀要と学術成果コレクションの関係などについて懇談しました。

“eCommons@Cornell”については、専任の職員が技術担当1名のみのため人手が足りないこと、資金の確保が大変なことなど、運営に大変苦労している様子が窺えました。



(左から) Cornellのリポジトリ担当者ら、
筆者, 行木先生

4. おわりに

2 大学の状況を比較すると、リポジトリを専門に担当する職員は極少数であること、コンテンツの中心は組織として集めやすい学位論文であって雑誌論文は少ないことなどの共通点があり、アメリカにおいても機関リポジトリはまだ認知度を上げる段階のようです。

今後は、各担当者との交流を続けるとともに、今回の経験を活かし、HUSCAPの効果的な運用に努めたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中大変ご親切に対応してくださいましたマサチューセッツ大学ならびにコーネル大学の皆様に、心より感謝申し上げます。

1) 学術成果発信小委員会委員

- | | |
|------------------------------|---|
| 2) HUSCAP | http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/ |
| 3) ScholarWorks@UMassAmherst | http://scholarworks.umass.edu/ |
| 4) InterNano | http://beta.internano.org/ |
| 5) AIRway | http://airway.lib.hokudai.ac.jp/ |
| 6) eCommons@Cornell | http://ecommons.library.cornell.edu/ |
| 7) Project euclid | http://projecteuclid.org/ |

RSPワークショップと英国プロジェクト・大学訪問記

附属図書館情報システム課 川 村 路 代

平成20年1月20日（日）から26日（土）にかけて、英国における機関リポジトリの取り組みについて学び、日本で進められている機関リポジトリのプロジェクトとの連携・協力の可能性について担当者と協議するため、英国を訪問しました。国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業・学術機関リポジトリ構築連携支援事業に係る「機関リポジトリコミュニティの活性化」プログラムの一活動です。金沢大学、千葉大学、広島大学、筑波大学の図書館職員と同行しました。

1. RSPワークショップ参加

21日（月）は、大英図書館で開催されたワークショップ「Repositories Support Project (RSP) : Professional Briefing and Networking event¹⁾」に参加しました。「Repositories Support Project」とは、イギリス国内の機関リポジトリの立ち上げ、継続を支援するための取り組みで、今回わたくしが参加したワークショップもRSPプロジェクトの活動の一つです。参加者は20人ほどで、くだけた雰囲気の中講義と熱心な論議が行われました。

2. SHERPA（ノッティンガム大学）訪問

22日（火）はSHERPAプロジェクトの担当者ビル・ハバード氏、ピーター・ミリントン氏、ジェーン・スミス氏に会うため、ノッティンガム大学を訪問しました。

SHERPAは前日のRSPも含め、英国において機関リポジトリに関する様々なプロジェクトにおいて主導的な立場にあります。SHERPA/RoMEO²⁾という、著者や大学のWebサイトにおける論文公開への欧米出版社のポリシーを集積したサイトも彼らの取り組みによるものです。

日本でも、学協会の機関リポジトリに対する論文掲載許諾状況について調査・公開するプロジェクト、SCPJ (Society Copyright Policies in Japan)³⁾が筑波大学、千葉大学、神戸大学によって進められています。この度の訪問ではこのSCPJの取り組みとRoMEOの連携の可能性について話し合いが持たれました。

結果として、SHERPAのメンバーはSCPJにたいへん興味を持ち、RoMEOとSCPJの連携について前向きに検討されることになりました。



SHERPAメンバーとノッティンガム大学にて

3. UKOLN (バース大学) 訪問

23日(水)にはUKOLNという活動機関に所属するマヘンドラ・マヘイ氏を訪ねました。北海道大学が中心となって開発した、機関リポジトリに収録された文献へのナビゲーションをリンクリゾルバによって実現するAIRWay⁴⁾というプロジェクトについて概要を説明し、イギリスでの普及を図るためのアドバイスをいただくためです。

幸いにして利点を理解していただけた、マヘイ氏はこのプロジェクトにたいへん関心を持ったようでした。AIRWayのヨーロッパへの浸透へ向けて、詳細について担当者間でのやりとりが始まっています。

4. サウサンプトン大学訪問

24日(木)は、サウサンプトン大学を訪問し、機関リポジトリの運営に携わるウェンディ・ホワイト氏、ジェシー・ヘイ氏、マーク・ブラウン館長とお会いしました。



サウサンプトン大学にて

サウサンプトン大学は機関リポジトリのパイオニアであり、コンテンツの数が継続的に増えている最も成功した機関リポジトリの一つです。研究者へのアプローチ方法などについて情報交換を行いました。コンテンツの収集方針や教員へのアプローチ方法は北海道大学のそれとは異なる点が多いことがわかりましたが、研究者への個々のコンタクトがコンテンツの獲得には最も効果的であるという点では意見が一致しました。

今回の英国訪問では、これまであまり知られていなかった日本の取り組みをアピールすることができ、また今後の連携につながる話ができたと満足しています。学んだことを今後の活動に生かしていきたいです。

最後になりましたが、快く送り出してくださった附属図書館の方々と、快く迎えてくださった訪問先の方々に感謝いたします。

- | | |
|-----------------|---|
| 1) RSP event | http://www.rsp.ac.uk/events/ProfBrief.php |
| 2) SHERPA/RoMEO | http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php |
| 3) SCPJデータベース | http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/ |
| 4) AIRWayプロジェクト | http://airway.lib.hokudai.ac.jp/ |

シリーズ 4

附属図書館北方資料室紹介

札幌の写真の草創（田本研造と東久世通禧）

北方資料室では、明治・大正期の北海道関係の写真を多数保存しています。これら写真を撮影した目的は、「開拓使や旧北海道庁が開拓の成果を中央（東京）へ報告するため」だと言われています。このため、開拓の威容を誇る風景や構造物の写真が多いのですが、今回は、そういったものではなく、人々の暮らしぶりや仕事ぶりがわかるような写真を紹介していきます。

今回紹介する写真は、附属図書館が編集した『明治大正期北海道写真集（1992年）』およびこの写真集の装幀を変えて市販した『明治大正期の北海道、写真編（1992年）』から撮影して転載します。これら写真集の写真は、写真集の「まえがき」にあるとおり、出典を明記すれば『営利を目的としない利用については、この写真集から自由に複写もしくは掲載していただいて結構』です。

実際に写真の紹介に入る前に脱線します。

- ・写真の著作権：写真も著作物であり、著作権法により保護されています。しかし著作権法では、写真の保護期間は図書より短く、明治32(1899)年に公布・施行した旧著作権法の著作権保護期間は、図書の『著者の死後30年』に対し、写真は『公表あるいは製作後10年』でした。この状態は長く続き、昭和46(1971)年施行の著作権法で『写真の著作権保護期間は、公表あるいは製作後50年』となり、平成9(1997)年によく図書と同じく『製作者の死後50年』となりました。
- ・被写体の肖像権：写真に撮影された人物には肖像権があります。ところが、生きている人の肖像権は保護されていますが、亡くなった人の肖像権は法律上保護されていません。写真週刊誌に対する判例を見ると、亡くなった人には肖像権は無いが『遺族の敬愛追慕の情』を侵害してはならない、と言っています。亡くなっているとは言え、無条件で使ってよいわけではありません。これから、人物が写っている写真を紹介しますが、『被写体となってくれた人々への感謝』を忘れずに見てください。

田本研造(1832-1912)は、三重県に生まれ、長崎で蘭医学・舎密学を学んだ後、安政6(1859)年、函館へと渡ってきました。函館に来た後、脱疽にかかりロシア領事館の医師・マトエーヴェフらにより右足の膝から下を切断しますが、その手術を機会にマトエーヴェフから写真術を習います。既に文久元(1864)年、函館で写真場を開業していた木津幸吉とともに写真術を研究し、明治2(1869)年、木津が東京へ移住した時に、その写真道具を譲り受け、函館で写真場を開業しています。

東久世通禧(1833-1912)は、第2代開拓使長官です。明治2(1869)年、函館の内戦が終結した後、7月『開拓使』が置かれ、初代長官は鍋島直正でした。鍋島長官は任地函館へ赴くことなく、8月、第2代の東久世長官が就任し、9月、開拓使函館出張所（明治3(1870)年閏10月に本庁）の置かれた函館へ赴任します。東久世の日記によると、函館では写真術の習得のため、田本を招き写真を試していました。明治4(1871)年4月、札幌に開拓使仮本庁ができ、東久世は札幌へ移ってきます。

【写真1】・【写真2】は、明治4(1871)年5月に撮影されたものです。中川源左衛門宅は、現在の大通東2丁目にありました。中川は、明治4(1871)年、開拓使から大工棟梁を命じられ、札幌建設のための土木・建築工事を一手に引き受けていました。撮影者は『東久世通禧(?)』となっています。

東久世の日記によると、札幌着任後も写真を試していたことは確かですが、この写真が東久世が撮影したものかどうか確認できていません。田本が既に札幌にいて撮影した、とも言われています。



写真1 中川源左衛門居宅
明治4(1871)年5月, 東久世通禧(?)撮影



写真2 中川源左衛門所持家屋(倉庫)
明治4(1871)年5月, 東久世通禧(?)撮影

明治4(1871)年7月, 東久世は東京へ戻ります。東久世が命じていたか、あるいは東久世の影響で写真を使ったデモンストレーションの有効性が開拓使に既に浸透していたか、8月, 開拓使は函館の田本に札幌近辺の写真撮影を依頼します。田本は足が不自由なため, 助手(井田倅吉)とともに雇われ, 8月から9月にかけて札幌・石狩・小樽を撮影しています。この当時, 撮影した写真は現場で現像する必要がありました。現像後, 田本が函館へ戻ってから印画紙にプリントし, 翌明治5(1872)年3月函館から東京へ送られています。東京へ送られた写真は22種類ですが, 1種類あたり複数枚プリントを作成しているため158枚です。この送られた写真なのか, それとも別に開拓使へ送った写真なのか, この時の写真の一つが【写真3】(2枚続き)です。札幌仮役所は開拓使仮庁舎のことで, 現在の北4条東1丁目にあたります。その建物の屋上から西を眺めた写真です。わずかに135年ほどの間に, 札幌が大きく変わってしまったことがわかります。



写真3 札幌仮役所物見ヨリ西ヲ見ル(其一, 其二) 明治4(1871)年9月, 田本研造撮影

今回紹介した写真は, 「人々の暮らしがわかる」写真ではありません。それでもとりあげたのはこれら, 明治4(1871)年に撮影された写真が, 撮影年月が分っている原写真で最も古いためです。1839年, フランスで初めて写真が公表されてからわずか32年後です。(北方資料室)

参考文献:

渋谷四郎. 北海道写真史: 幕末明治, 平凡社, 1983, 171p.

桑嶋洋一. 函館写真史考(下). 地域史研究はこだて, 1993, 第18号, p. 45-82.

アムールスキー, ニコライ; 原暉之訳・解説. 函館最初の写真師(在日ロシア人の生活から).

地域史研究はこだて, 1996, 第23号, p. 103-107.

教員著作寄贈図書

(平成19年10月17日～平成20年 2 月14日)

寄贈者	所属部局	寄贈図書	所在
濱田 康行	経済学研究科	地域再生と大学 / 濱田康行編著. - 中央公論新社, 2007. 10	本館・開架閲覧室 分館・開架・一般
水溜真由美	文学研究科	ジェンダーの視点からみる日韓近現代史 / 日韓「女性」共同歴史教材編纂委員会編. - 梨の木舎, 2005. 10	本館・開架閲覧室
水溜真由美	文学研究科	カルチュラル・ポリティクス1960/70 / 北田暁大, 野上元, 水溜真由美編. - せりか書房, 2005. 12	本館・開架閲覧室
鈴木 亮輔	工学研究科	Frontiers of materials science / Tomohiro Akiyama ... [et al.] - Ohmsha, c2007	本館・開架閲覧室 分館・開架・一般
氏平 増之	工学研究科	ジオエンジニアのための計測・情報処理入門 : 計測原理とパソコンの利用 / 氏平増之著. - 山海堂, 2007. 11	本館・開架閲覧室
望月 哲男	スラブ研究センター	ロシア・テロリズムの胎動 / エドワード・ラジンスキー著 ; 望月哲男, 久野康彦訳 - 日本放送出版協会. 2007. 9. - (アレクサンドルII世暗殺 ; 上)	分館・開架・一般
望月 哲男	スラブ研究センター	ドストエフスキーの死の謎 / エドワード・ラジンスキー著 ; 望月哲男, 久野康彦訳 - 日本放送出版協会. 2007. 9. - (アレクサンドルII世暗殺 ; 下)	分館・開架・一般
山口 二郎	公共政策大学院	ポスト戦後政治への対抗軸 / 山口二郎著. - 岩波書店, 2007. 12	本館・開架閲覧室
伊丹 俊夫	理学研究院	Atomic transport in liquid metals / Mitsuo Shimoji and Toshio Itami. - Trans Tech, 1986	本館・書庫・洋書
伊丹 俊夫	理学研究院	Condensed matter : disordered solids / editors S.K. Srivastava, N.H. March. - World Scientific, c1995	本館・書庫・洋書
伊丹 俊夫	理学研究院	Condensed matter : new research / M.P. Das, editor. - Nova Science Publishers, c2007	本館・書庫・洋書
遠藤 泰弘	法学研究科	オットー・フォン・ギールケの政治思想 : 第二帝政期ドイツ政治思想史研究序説 = The political thought of Otto von Gierke : an introduction to the history of political thought in the German Empire (1871-1918) / 遠藤泰弘著. - 国際書院, 2007. 12 - (21世紀国際史学術叢書 ; 2)	本館・開架閲覧室
平本 健太	経済学研究科	情報システムと競争優位 = Information system and competitive advantage / 平本健太著. - 白桃書房, 2007. 12	本館・書庫・和書 分館・開架・一般
関口 恭毅	経済学研究科	情報品質管理 : 役立つ情報システムの成功要因 / リチャード・Y・ワン, エリザベス・M・ピアス, スチュアート・E・マドニック, クレイグ・W・フィッシャ編, 関口恭毅監訳. - 中央経済社, 2008. 1	本館・書庫・和書 分館・開架・一般

ご惠贈誠にありがとうございました。

図書館では本学教員が執筆した図書を収集しています。新たに本を出版される際には、是非ご惠贈くださるようご協力お願い致します。また、北京大学図書館との相互交流および協力に関する覚書の締結に基づき、北京大学との交換用にもう1冊分、ご寄贈いただきますようご協力をお願い致します。とりまとめは、附属図書館で行います。

学術成果コレクション(HUSCAP)寄贈文献

(平成19年10月17日～平成20年2月14日)

168名の先生から、263件の著作論文等を寄贈いただきました。

また、研究紀要等電子ジャーナル化推進プロジェクトにより、新たに7研究科等の12タイトルの紀要文献1,934件が公開されました。

HUSCAPについて詳しくは、<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/>をごらんください。



ご惠贈誠にありがとうございました。図書館では本学教員が執筆した著作の原稿ファイルを収集し、HUSCAPにて保存・公開しています。新たに論文等を発表された際には、是非ご惠贈くださるようご協力お願い致します。ファイルは、repo@lib.hokudai.ac.jp宛にメールでお送りいただくだけで結構です。

資料紹介

平成19年度特別図書購入費による購入資料 (追加)

榆蔭127号にて紹介した平成19年度特別図書購入費による購入資料ですが、追加が1点ありますので紹介します。

● Gutenberg, Die Mazarine-Bibel (Cabra Ausgabe) (マザラン聖書) (カブラ版)

グーテンベルク聖書ファクシミリ版。「グーテンベルク聖書」の価値はテキスト内容にではなく、印刷や装丁にある。しかし原本は世界に僅かの部数しか残っておらず、手に取る機会はない。写本のファクシミリ版製作専門の出版社が製作したこの版は、原本の姿を忠実に再現しているので、メディア研究者にとって大変有用な資料となろう。

会議（平成19. 11. 7～平成20. 3. 14）

【学 内】

◎図書館委員会

○第208回〈12月20日（木）〉

議題

1. 平成21年度概算要求事項について
2. 「北海道大学学術成果コレクション資料提供・公開細則」の一部改正について

報告事項

1. 北分館の耐震改修工事完了について
2. 本館屋上防水工事について
3. 本館電動集密書架設置工事について
4. 北海道大学学術成果コレクション運営方針について
5. 学術成果発信小委員会について
6. 「図書館情報システム」調達について
7. 全学の蔵書点検計画及び実施状況について
8. 本館、北分館夏期蔵書点検結果について
9. コーポレートカードによる図書購入について
10. 科学研究費補助金について
11. 平成20年度次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業総合目録データベース遡及入力事業の実施について
12. 外部資金の獲得について
13. 附属図書館目的積立金について
14. 北海道大学附属図書館講演会について
15. 小樽商科大学学生の利用について
16. 北海道図書館連絡会議について
17. 図書館関係諸会議について

◎北分館委員会

○第145回〈1月23日（水）〉

議題

- 1) 北分館学生用図書の重点的整備について

報告事項

- 1) 北分館耐震改修工事の完了について
- 2) 北分館追加工事並びに工事に伴う休館、若しくは一部施設の利用停止について

○第146回〈3月4日（火）〉

議題

- 1) 北分館学生用図書の重点的整備について

◎学術研究コンテンツ小委員会

○平成19年度第3回〈2月21日(木)〉

◎学術成果発信小委員会

○平成19年度第3回〈12月17日(月)〉

◎点検評価小委員会

○平成19年度第1回〈3月11日(火)〉

【学 外】

◎国立大学図書館協会

○学術情報委員会〈11月28日(水)〉(筑波大学)

○北海道地区協会会議〈11月28日(水)〉(北海道大学)

◎北海道地区大学図書館協議会

○第1回幹事館会議〈3月14日(金)〉(北海道大学)

◎北海道図書館連絡会議

○図書館年鑑2008北海道ブロック協力者会議〈1月17日(木)〉(北海道大学)

人 事 往 来

【平成20年1月1日付発令】

[配置換え等]

佐 藤 信 世 ▪ 附属図書館情報管理課(雑誌受入担当)
(附属図書館情報サービス課付(工学研究科・情報科学研究科・工学部))
中 村 陽 附属図書館情報サービス課付(水産科学研究院・水産科学院・水産学部)
(附属図書館情報管理課(雑誌受入担当)) ▪

【平成20年2月22日付発令】

[配置換え等]

辻 村 和 美 ▪ 附属図書館情報サービス課(本館閲覧担当)
(附属図書館情報サービス課付(水産科学研究院・水産科学院・水産学部))

図書館日誌（平成19年11月～平成20年2月）

月日	項 目	月日	項 目
11月		13	本館図書選定小委員会
5	文献探索ワークショップ（経済学研究科）	17	平成19年度第3回学術成果発信小委員会
6	北海道図書館連絡会議（道立図書館）（館長，情報サービス課長）	18	LexisNexis Academic 講習会
6	図書館見学（北海学園大学学生14名）	18-20	著作権実務講習会（東京・仙台）（情報管理課，情報サービス課）
6-9	西洋社会科学古典資料講習会（東京）（情報システム課）	19	平成19年度第8回ホームページ委員会
7	HUSCAP説明会（工学研究科）	19	文献探索ワークショップ（教育学部）
7	今後の機関リポジトリ運営者コミュニティの在り方について（打合せ）（東京）（情報システム課長）	20	第208回図書館委員会（平成19年度第3回）
7-9	第9回図書館総合展（横浜）（情報システム課）	1月・	
7-9	EUトレーニングセミナー（東京）（情報サービス課）	10	平成19年度第3回楡蔭編集委員会
8	情報探索入門	16	平成19年度第9回ホームページ委員会
8	HUSCAP説明会（経済学研究科）	17	図書館年鑑2008北海道ブロック協力者会議（北大）（情報サービス課長）
9	DRF第3回ワークショップ（横浜）（館長，情報システム課長，情報システム課）	17	ライブラリーセミナー（EndNote Webの使い方）
13	情報探索入門	18	ライブラリーセミナー（新聞記事の探し方）
13-16	大学図書館職員短期研修（東京）（情報システム課）	20-26	機関リポジトリ・海外視察（情報システム課）
14	北分館図書選定小委員会	23	第145回北分館委員会（平成19年度第2回）
20	第2回ERMS実証実験会議（東京）（情報管理課）	25	本館図書選定小委員会
20-21	SciFinder Scholar講習会（中上級編）（本館他）	30	北分館図書選定小委員会
21	平成19年度第7回ホームページ委員会	30-31	DRF国際会議2008（大阪）（館長，情報システム課長，情報システム課）
21	情報探索入門	2月・	
22	DRF地域ワークショップ（岡山）（情報システム課）	1	図書館見学（釧路湖陵高校生徒6名）
28	国立大学図書館協会学術情報委員会（東京）（情報サービス課長）	14	図書館見学（北海道インターナショナル学校生徒16名）
28	平成19年度国立大学図書館協会北海道地区協会会議	15	目録システム講習会担当者会議（東京）（情報システム課）
12月		18	DRF地域ワークショップ（北海道地区）（北大）
3	HUSCAP説明会（理学研究院）	19-20	新図書館情報システム研修（閲覧・所蔵）
3-4	Discovery Gate講習会（本館他）	20	第3回ERMS実証実験会議（東京）（情報管理課）
3-5	図書館視察（横浜国立大学，国際基督教大学，成蹊大学）（情報管理課，情報サービス課）	21	新図書館情報システム研修（ILL）
6	ライブラリーセミナー（医中誌の使い方）	21	平成19年度第3回学術研究コンテンツ小委員会
7	ライブラリーセミナー（PubMed/MEDLINEの使い方）	25	第4回学術情報流通改革検討WG会合（東京）（部長）
9-14	大学間協定校交流事業参加（米国）（情報システム課）	26	ライブラリーセミナー（国内雑誌論文の探し方・電子ジャーナルの使い方）
10-11	NII主題ナビ（東京）（情報システム課）	29	本館図書選定小委員会
11	ライブラリーセミナー（Web of Scienceの使い方）		
12	ライブラリーセミナー（医中誌の使い方）		
12	第3回学術情報流通改革検討WG会合（東京）（部長）		
13	ライブラリーセミナー（PubMed/MEDLINEの使い方）		

編集余話

＊前号(127号)は館長の提言による「図書館職員による呼びかけ」として「学術情報流通とHUSCAPの現況」について掲載しました。この記事について館長から「ホームページを見るよりHUSCAPについてよく理解できた」との感想を頂いた、と伺いました。図書館からの情報発信として今後も継続していきたいと思います。

本号も、図書館職員による「電子ジャーナルの現状」についてお知らせいたします。ご感想、ご意見等お知らせ願えれば幸いです。

＊「北海道大学学術成果コレクション」(通称HUSCAP)にちなみ、職員有志が園芸部をつくりハスカップを育てています。これは北方生物圏フィールド科学センターの星野洋一郎助教のご指導で一昨年からはじめたものです。園芸部では収穫したハスカップを利用したビール造りを企画し、昨年は約150本醸造し味わいました。HUSCAPとともに成長することを願っています。

ハスカップ(学名: *Lonicera caerulea* var. *emphyllocalyx*)はスイカズラ科スイカズラ属の落葉低木。実は食用となる。和名はクロミノウグイスカグラ「ウィキペディア(Wikipedia)」



北海道大学附属図書館報「榆蔭」(ゆいん) 第128号 平成20年3月31日発行

〈編集〉 「榆蔭」編集委員会

〈発行〉 北海道大学附属図書館 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL : 011-706-2967 FAX : 011-747-2855 ホームページ <http://www.lib.hokudai.ac.jp>